

2025.12.8(Mon) 神戸新聞 (朝刊 20面) 地域広域版



視覚障害のある患者のために電話自動音声ガイダンスを作成した明石南高校の生徒ら=中山記念会館

県眼医会によると、治療後の患者の生活を支える「ロービジョンケア」に取り組んだが、紙媒体の問い合わせに従つて選択して

神戸の福祉機器展 明石南高生が実演

電話音声案内を実用化

視覚障害者に支援情報届ける

視覚障害者のための総合福祉機器展「アイフェスター2025 in 神戸」が、神戸市兵庫区の中山記念会館で開かれた。明石南高校(明石市)の生徒らは、患者が支援情報にアクセスしやすくなるよう電話の自動音声ガイダンスを作り、兵庫県眼医会のブースで実演した。

(高田康夫)

いくだけで、病状に合った支援を提供する施設や団体の紹介を受けられる仕組みだ。

県眼医会から依頼を受けた明石南高の生徒6人が、今年4月からプロジェクトを開始。自分が見えない人にも分かりやすい音声ガイダンスサービスの選択や、伝える内容、言葉の速さについて検討を重ねてきた。

電話の自動音声ガイダンスで患者と支援施設・団体をつなぐこの取り組みは、日本眼医会も注目。来年春ころには、県内の医療機関で紹介できるよう協議が進んでいるという。

明石南高2年生の齋藤祐弥さん(16)は、「誰でも目の病気になる可能性がある」と考えてプロジェクトに参加した。「いろんな人の役に立てればうれしい。全国もあった。

や世界で使ってもらえたらいい」と話した。

アイフェスターは、県網膜色素変性病協会の主催で、2003年から年1回開いている。県眼医会のほか、13の企業・団体がブースを出して視覚障害者の生活支援グッズなどを紹介。病気や年金などの相談や直導大の歩行体験などのコーナーもあった。